

# 桑原浩二の国語科（第1学年）研究計画

## 1 本研究で目指す子ども

第1学年国語科「書くこと」の学習において、**題材に対する気持ちや様子を比較関係付け、自分の成長が伝わるように書き表す子ども**を目指す。具体的には、書くことの題材として設定する学校行事や学習活動の前後の気持ちや様子を比較関連付け、自分の成長が読み手に伝わるように書き表す子どもの姿である。なお、自分の成長とは、「できなかったことができるようになったこと」及び「期待していた以上の思いに気付いたこと」を指す。

これまでの書くことの学習において、学校行事後に文章を書かせることは、もはや慣例化されている。例えば、運動会や遠足についての文章がその一つである。このようないわゆる「行事作文」を書かせることは当たり前のようになっている傾向が強いがゆえに、何のために書くのかという目的意識が不明確な指導が多く見られる。このことは文章を無目的に書かせているため、子どもが主体的に書くことにはならず、書くこと嫌いを生んでしまう要因にもなっていた。

そこで、目指す子どもの姿を具現するために、従来の書くことの指導から大きく転換し、書く目的を明確にもたせた上で、働き掛けの有効性を検証していく。

まず、単元構成を変える。従来指導において、書く機会と場の適切な設定がなされていないことが指導上の課題として挙げられていた。本研究では、他教科等と関連を図ることで書く機会と場を見だし、書く題材を変えながらも年間を通じて「自分の成長」という視点で書き表していく。

次に、文章化過程における「取材」を題材として設定する学校行事や学習活動の前から仕組む。書くことに必要な事柄を集める取材は、題材として設定された学校行事や学習活動の後に行われる場合がほとんどであった。ここに一石を投じる。学校行事や学習活動の前から取材を行わせることで、前後の気持ちや様子を比較関係付けられるため、質的にも量的にも取材が深まることになる。

最後に、文章化過程における「記述」の過程を複数回位置付ける。「下書き・清書」とは大きく異なり、記述を繰り返し文章を段階的に練り上げ磨いていくことで、そのときの気持ちや様子を具体的に書き表せるようにする。

※文章化過程とは、学習指導要領に示されている「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」といった一連の書くことの過程である。

## 2 本研究で育む資質・能力

①知識や技能	②ツール活用能力	③見方や考え方	④態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書く</li> <li>○言葉の特徴やきまりを理解し、使い分ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○やまびこシートを使い、書こうとする題材に必要な事柄を集めたり、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えたりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己評価及び相互評価を行いながら記述を繰り返すことで、そのときの様子や気持ちが具体的で伝わりやすい文章になるという考え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進んで書こうとする態度</li> <li>○書くことによって、自分の思いを伝えることができる楽しさを感じ、よりよく表現しようとする態度</li> </ul>

## 3 主張する働き掛け

書くことの単元に入る前に、国語科で発揮させたい資質・能力との関連を考え、道徳や生活科といった他教科等の単元を学習させる。特に生活科「大きくなるということは」の単元において、自分の成長が伝わる文章や絵を「成長マイブック」に綴じ込んでいく学習を行う上で、書くことの学習と年間を通して関連させながら展開する。この学習の中で、国語科で発揮させたい資質・能力と関連のある資質・能力を発揮させておく。

まず、成長マイブックに綴じ込んでいくために必要な要件である「成長」を伝えられる題材を提示する。同時に、おうちの人に向けて自分の成長を伝える文章を書くという相手意識と目的意識をもたせる。書くことに対する動機付けがなされていることから、この段階における子どもは、書こうとする意欲が高まった状態にある。そこで、取材及び構成をさせるための思考ツールである「やまびこシート」を活用し、題材に必要な事柄を付箋を使って集めさせ、簡単な構成を考えさせてから1回目の文章を書かせる。子どもは、書こうとする意欲が高いが、実際に書くのは、「したこと」と「自分の気持ち」で構成される数文程度の文章である。そこで、1回目の文章を書き上げた子ども(C0)に、次のように働き掛ける。

### 働き掛け1

**最初に書いた文章は、自分の成長が伝わるかを問う。**

これは、学習に対する問いと見通しをもたせるための働き掛けである。

1回目の文章を書き終えて満足している子どもに、自分の成長が伝わる文章になっているかと問

う。子どもは1回目の文章を読み返し、自分の文章は成長したことが伝わるかどうかを考える。このように、自分の成長が伝わる文章になっているかどうか考える姿を問いをもった姿とする。この段階において、成長したことが伝わる文章はほとんど見られない。その後、「自分の成長が伝わる文章にするためには、どのように書けばよいのだろうか」という課題を提示する。

#### **働き掛け2**

**活動前に考えていた気持ちや様子を提示し、書くために必要な事柄を整理させる。**

これは、自分の成長に気付くために必要な事柄を収集するための働き掛けである。

どのように書けばよいかと問いをもった子どもに、活動前に書いたワークシートを提示する。このワークシートは、活動前に考えていた期待や不安といった気持ちが書かれてあり、取材メモとしての役割がある。子どもは、このワークシートを見ることで活動前の気持ちや様子を思い出し、活動前に考えていた気持ちや様子を付箋に書く。この付箋をやまびこシートに時系列に沿って貼っていくことで**書こうとする題材に必要な事柄を集め、簡単な構成を考える**。やまびこシートには、1回目の文章を書くために使用した付箋とワークシートから得た活動前の気持ちや様子を書いた付箋の2種類が上下に貼ってある。このように**ツール活用能力**を発揮し、自分の成長を書き表すために必要な事柄を収集した子どもへ次のように働き掛ける。

#### **働き掛け3**

**題材に対する気持ちや様子を比較関係付けた理由を問い、再度文章を書かせる。**

これは、自分の成長に気付かせ、理由を引き出すための働き掛けである。

題材に対する気持ちや様子を付箋に書き、それをやまびこシートに貼り付けた子どもに、「どの付箋を使えば、成長したことを伝えられるでしょうか」「どうしてその付箋を使おうと思ったのですか」と問う。これは、やまびこシートにある2種類の付箋をどのように比較関係付ければ自分の成長を伝えられるかについて考えさせるためである。子どもは、2種類の付箋からそれぞれ1つずつの付箋を選択し、前の自分と今の自分とを比べて関係付け、できなかったことができるようになったことや期待していた以上の思いに気付いたことをその理由と共に書き表す。このようにして、**自分の成長が伝わるように書き表す子ども(Cn)**になる。そのような子どもに、次のように働き掛ける。

#### **自覚のための働き掛け**

**文章を読み返させ、自分の成長が伝わる文章を書けた理由を問う。**

これは、様々な資質・能力を発揮したことで、課題を解決できたことを自覚させるための働き掛けである。

最終的に仕上げた文章と最初に書いた文章とを読み返させる。すると子どもは、最終的な文章の方が自分の成長が伝わることに気付く。そこで、自分の成長が伝わる文章を書けた理由を問う。子どもは、「最終的に仕上げた文章の方が、成長したことが伝わるな。登山の前後の気持ちや様子を比べたことで成長したことに気付いたよ」などと様々な資質・能力を発揮したことにより課題解決ができたことを自覚する。そして、子どもは、最終的に仕上げた文章を成長マイブックに綴じ込み、おうちの人との交流会で共感的な反応をもらうことで、書いて伝えることよさを実感する。

## **4 検証**

### **(1) 検証すること**

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

### **(2) 検証の方法**

- ① 働き掛け3を受けて、できなかったことができるようになった記述や期待していた以上の思いに気付いた記述とその理由があるかどうかを2回目の文章内容から判断する。
- ② 働き掛け2、3を受けて、やまびこシートを使いながら題材に対する気持ちや様子を比較関係付けるなど、想定した資質・能力を発揮したかどうかを、やまびこシートや文章内容から判断する。
- ③ 自覚のための働き掛けを受けて、発揮した資質・能力を自覚したかどうかを、やまびこシート及び文章内容、子どもの発言、VTRから判断する。

## **5 年間の授業計画**

- (1) 指定研究授業(6月) 「成長マイブックを作ろう! -角田山登山-」(6時間)
- (2) 中間検討会(9月) 「成長マイブックを作ろう! -ばらいろお店やさん-」(6時間)
- (3) 初等教育研究会(2月) 「成長マイブックを作ろう! -ばらいろ102の1年間-」(6時間)